



海外における日本語教育

Japanese-Language Education Overseas

海外の人たちに日本語を知ってもらうことは、
日本への親しみや理解を世界に
広げることにつながります。

国際交流基金は日本語教育が世界で
活発に行われるよう、全世界規模での
日本語能力試験の実施や教材開発、
海外日本語講座の運営、日本語教育の専門家の
海外への派遣、海外で教える教師の訪日研修など、
さまざまな側面から日本語教育を支援しています。

海外における日本語教育

Japanese-Language Education Overseas

海外日本語教育の促進

国際交流基金が日本語教育事業を行うなかで、その使命の重要な部分をなすのは日本語教育の基礎基盤をつくることです。日本語教育のノウハウの共有、教育機関の調査や情報交流の場の提供など、目に見えにくくても、日本語教育を世界に広げるためになくてはならない基盤をつくるために、継続的な活動を続けています。

教師・教育機関への支援

国際交流基金は、一人の日本語教師の指導が、たくさんの生徒に影響を与えることを重視し、海外の現場で日本語を教える教師の指導力向上を図るプログラムを展開しています。教師育成だけでなく、海外の日本語教育機関への助成や日本語教育のための催しに対する助成なども行います。

学習者への支援

国際交流基金は、ふたつの側面から学習者を支援します。ひとつは教材の制作、将来の教師の養成等、日本語の学習環境の向上をはかる間接的支援。もうひとつは諸外国の外交官、政府・公的機関の職員、研究者等、その活動上、日本語の習得を必要とする人を対象とした研修実施といった直接的な支援です。海外の教育機関単独では、実施や継続が難しいタイプの学習者支援を継続して行っています。



日本語専門家の海外派遣／ 教育機関・プロジェクト支援

海外の教育機関に日本語教育の専門家や指導助手を派遣しています。日本語専門家の活躍の場は広く、世界各地で年間101名が活躍しています。また、海外の非営利団体が運営する日本語講座や、海外で開催される日本語弁論大会、日本語教育に関する学術会議・ワークショップ、日本語教師研修会等への助成も行っています。

JFにほんごネットワーク (さくらネットワーク)

さくらネットワークは、日本語普及と教育の質の向上のため、世界各地の中核的な日本語教育機関や日本語教師会をつなぐネットワークです。国際交流基金の海外拠点と、国や地域全体の日本語教育に波及効果のある事業を実施する機関・団体が中核メンバーとなり、連携して世界各地の日本語教育をサポートしています。

海外日本語教師への研修 [日本語国際センター]

海外の外国人日本語教師のうち、各国・地域で指導的役割を果たしている人や、今後指導的立場にたつ人に対する高度な研修を行っています。また、教授経験の浅い教師対象に日本語力と日本語教授能力の向上を目指すなど、参加する教師の属性に応じて、さまざまな研修プログラムを実施しています。

海外日本語教育機関調査

世界中に広がる国際交流基金の拠点、在外公館等の協力を得て、全世界で日本語教育を行う機関の調査を3年毎に実施しています。これは日本語教育に関する世界で唯一の大規模な調査で、調査結果は新聞・雑誌等のメディアで数多く引用されます。

JF日本語教育スタンダード開発 日本語教材開発

日本語の教え方、学び方、学習成果の評価の仕方を考えるために独自のツールの開発を継続的に進めており、海外における日本語教育のさまざまな基盤整備の中心的役割を担っています。また、インターネットや映像を活用した教材開発・運営・普及を行っています。

日本語能力試験 [試験センター]

日本語を母語としない人を対象に日本語能力を測定し、認定するための試験で、世界各地および日本国内で1年に2回、一斉に実施されます。2010年は世界58の国と地域で、約61万人が受験しました。小学生から社会人まで幅広い層が受験し、実力の測定のため、就職や昇進のため、大学等への入学のためと、さまざまに活用されています。

海外日本語学習者への研修 [関西国際センター]

日本と各国間の良好な関係を築くために重要な任務にあたる諸外国の外交官、政府・公的機関の若手職員や、研究者、大学院生などを対象に日本語研修を行っています。また、諸外国での日本語教育を奨励するため、特定国の日本語学習者で大学生、高校生のなかから成績優秀者を日本に招く研修も実施しています。



1



2



3



4



5



6



7



8

1. 関西国際センターで実施された「国内大学連携大学生訪日研修」に参加した各国の大学生。この日は大相撲を観戦／2. ケニアのケニヤッタ大学で日本語を学ぶ学生達が、授業の一環として日本料理体験を楽しむ [ケニア・ナイロビ]／3. カナダ・マニトバ州で行われたプログラムで日本の遊びに興じる現地の高校生達／4. クアラルンプール日本文化センターで行われている日本語授業風景 [マレーシア・クアラルンプール]／5. 奈良で東大寺を見学する日本語国際センターの研修生たち／6. 西スマトラ州パダン市で行われた日本語教師会小研究会 [インドネシア・パダン]／7. アラビア語版の『基礎日本語学習辞典』が出版され、記念式でメディアのインタビューに答える関係者 [エジプト・カイロ]／8. パクー国立大学で日本語を学ぶ学生が折り紙クラブを結成。難易度の高い作品も [アゼルバイジャン・バクー]

日本語教育の専門家派遣と 海外で活躍する教師間のネットワークを拡充

■世界各国で日本語教育の専門家が活躍

国際交流基金は、海外各国における日本語教育の定着と自立化の促進を目的に、各地に日本語教育の専門家を派遣しています。派遣された日本語専門家は、現地教師の育成、カリキュラム・教材作成に対する助言、教師間ネットワークの構築支援、教室での日本語教授など、それぞれが取り組むべきミッションのもとに活動を行っています。2010年度は39カ国にむけて101人の日本語専門家を派遣しました。

専門家たちは各地の関係者とネットワークを築きながら、日々活動しています。たとえば、「トルコにおける日本年」の関連事業として2010年10月に実施された「第19回アンカラ日本語弁論大会」では、中東地域に派遣されている日本語専門家たちが、現地の日本語教育関係者と一致団結し、日本語弁論大会としては世界で初めて、インターネットライブ中継を実現させました。配信時の視聴者数は約1,500人。中東を中心とする各国からのコメントも多数寄せられました。他にも、日本語教育関係者インタビュー動画のネット配信など、日本語教育にITを取り入れることで、派遣された国・地域の日本語教師のネットワーク構築・強化に協力しています。こうした、教師間ネットワークの立ち上げ・強化を支援することも、日本語専門家の大切なミッションのひとつです。

■世界各地の日本語教育プロジェクトを支援

JFにほんごネットワーク（通称：さくらネットワーク）は、世界各地の日本語普及と教育の質の向上のため、国際交流基金の海外拠点や、国際交流基金と協力・連携をとりながら活動する各地の中核的な日本語教育機関、日本語教師会をつなぐネットワークです。2008年にネットワークの構築を

開始し、2010年度末までに中核メンバーを100機関にすることを目標としてきましたが、2010年度末には33カ国1地域102機関が参加し、目標を達成することができました。こうしたネットワークを活かすため、「さくら中核事業」というプログラムを設け、海外拠点においてさまざまな日本語事業を実施しているほか、他の中核メンバーが実施するプログラムのうち、国や地域全体での日本語の普及・拡大・発展につながる波及効果の高い事業を支援しています。

また、2010年度には、国際交流基金の海外拠点のない国を対象として、日本語教育機関に対する公募助成プログラムの大幅な見直しを行い、各国・地域のニーズに対応した「日本語普及活動助成」をあらたに公募事業として開始しました。

2010年度に実施された「第2回中米カリブ日本語教育セミナー」は、こうした支援を受けて実現した事業のひとつで、中米カリブ日本語教育ネットワークにより実施されました。このネットワークは、一国では決して日本語学習者の規模が大きいとは言えない中米地域の国々だが、他国との連携によって各国の日本語教育の発展を目指そうと、2009年に立ち上がりました。セミナーには、キューバ、ドミニカ共和国、グアテマラ、エルサルバドル、ホンジュラス、ニカラグア、コスタリカ、パナマの計8カ国から日本語教師が参加。ネットワークが立ち上がったことで、それぞれの機関で孤軍奮闘している教師が、他国の同僚の存在を知り、情報を交換し、悩みを共有し、相談しあえる環境がつけられました。セミナーやネットワークの存在は、それぞれの現場で日本語教師を続けていくうえでの励みにもなっています。



[左] インドの中等教育課程での日本語の授業

[中] モンゴル国営放送の「ラジオ日本語講座」の収録風景

[右] スリランカでの日本語教育の拠点、ケラニア大学の日本語教師達

新しくなった「日本語能力試験」 ついに運用開始

日本語能力試験 (Japanese-Language Proficiency Test 略称: JLPT) は日本語を母語としない人たちの日本語能力を測定し、認定するための試験で、国際交流基金は世界各地の現地共催機関と協力して試験を実施しています (日本では、試験の共催者である日本国際教育支援協会が実施しています。台湾での試験は2010年より財団法人交流協会と共催しており、実施業務は交流協会が担当しています)。

■新しい「日本語能力試験」の初めての実施

日本語能力試験は、1984年の開始以来、25年以上の歴史がありますが、近年、試験の受験者層が拡大して受験目的が多様化し、試験の結果 (成績) は大学入試や資格試験の要件、就職や昇進・昇格にあたっての判断基準など、さまざまに活用されるようになりました。そのため、これまでに発展してきた日本語教育学やテスト理論の研究成果や蓄積してきた試験結果のデータなどをふまえて、2010年より、新しい「日本語能力試験」(新試験) を開始しました。

[試験改定のポイント]

①コミュニケーション能力重視

日本語の文字、語彙、文法などの知識だけではなく、その知識を使ったコミュニケーション能力をより重視しています。

②認定レベルが5段階に

レベルが4段階 (1～4級) から5段階 (N1～N5) となり、受験者が自分に合ったレベルを選びやすくなりました。

③得点等化の実施

日本語の能力がより正確に測れるように、得点の出し方が変わりました (等化による尺度得点の採用)。

④『日本語能力試験Can-do自己評価レポート』の提供

受験者やまわりの人が「このレベルの合格者は日本語を

使ってどんなことができそうか」のイメージをつくるための参考資料を提供します。

■海外で実施された新試験を約42万人が受験

2010年は7月4日と12月5日の2回、海外において新試験を実施し、あわせて約42万人が受験しました。7月の第1回試験は、海外13の国・地域の80都市と日本国内で、N1からN3の試験を行いました。国際交流基金が実施業務を担当した海外12カ国の応募者数は約18万6千人、受験者数は約15万4千人でした (第1回試験としては実施国は10カ国、実施都市は21都市の増加)。

12月の第2回試験は、海外57の国・地域の186都市と日本国内で、N1からN5の全レベルが実施されました。国際交流基金が実施した海外56カ国の応募者数は約31万4千人、受験者数は約26万7千人でした。2010年第2回試験から、ポルトガル、チェコ、モロッコの3カ国で新たに試験が実施されるようになり、また、高陽・富川 (韓国)、フィラデルフィア・ボストン (米国)、ヴェネツィア (イタリア)、ハンブルク (ドイツ) が新たに試験実施都市となりました。

■JTPT公式ウェブサイトをリニューアルしました

新試験の開始に伴い、日本語能力試験公式ウェブサイト (<http://www.jlpt.jp/>) をリニューアルしました。試験の実施都市や受験手続きなどの情報に加えて、新試験の問題例をエラーニング形式で体験できるコンテンツや、新試験についてのよくある質問など、新しい内容を充実させました。多言語化も進め、2010年度中には日本語版・英語版・中国語 (簡体字) 版の3言語版を公開しました。2010年7月のリニューアルオープンから2011年3月末までに357万件 (ページビュー) のアクセスがありました。



[上] ワルシャワでの日本語能力試験の会場

[右] リニューアルされたJLPT公式ウェブサイト

400名を超える海外の日本語教師の研修と 海外大学生の日本語および文化理解の機会を創出

■ 56カ国・425名の日本語教師が研修修了

国際交流基金の「海外における日本語教育」事業のなかのひとつの柱は、教師を支援するための事業です。2009年に国際交流基金が実施した「日本語教育機関調査」によると、海外での日本語教育上の問題点として、日本語教師の数の不足だけでなく、教師の日本語教授技術や日本語運用力の不足や教材不足が挙げられています。こうした問題に対応するため、国際交流基金の附属機関である日本語国際センター（埼玉県さいたま市）では、海外で活躍する日本語教師の訪日研修や、教材・カリキュラム開発などの教師支援活動を行っています。

日本語国際センターは、1989年に設立されて以来、8千人以上の日本語教師を迎えており、海外の日本語教師が研修を受ける機関として、高く評価されています。

2010年度は、2週間から1年間までのさまざまな19の研修を行い、のべ56カ国から425人の日本語教師が日本語国際センターの研修に参加しています。

■ 6カ月間の長期研修に挑んだ53名

海外日本語教師長期研修は、教授経験が6カ月以上5年未満の若手外国人日本語教師を対象とした6カ月の研修で、2010年度は33カ国から53名が参加しました。研修参加者は、日本語や日本語教授法の授業だけでなく、書道、折り紙、生け花、着付け、茶道、日本舞踊等の文化体験プログラムや、日光や関西方面への研修旅行にも参加します。

研修参加者は日本滞在を活用し、日本語運用力の向上に努め、日本社会・日本文化への理解を深めるように精力的に活動していました。彼らの今後の活躍が、これからの日本語教育の発展につながっていくことを期待しています。

■ 40名の外交官・公務員が学んだ関西国際センターの活動

日本語教育支援のもうひとつの柱は「日本語学習者への支援」です。多様化する日本語教育のニーズに対応するため、1997年に大阪府田尻町に設立された関西国際センターでは、職業上、日本語能力を必要とする海外の専門家を対象とした「専門日本語研修」と、海外で日本語を学んでいる大学生・高校生等を対象とした「日本語学習者訪日研修」を実施し、日本語教育支援ウェブサイト「アニメ・マンガの日本語」など、Eラーニング開発事業にも取り組んでいます。

専門日本語研修のなかでも、「外交官・公務員日本語研修」では日本の外務省の協力を得て、諸外国の外務省および政府・公的機関の若手職員を8カ月間招へいし、日本語と日本事情の研修を行っています。2010年度は、37カ国から40名が参加しました。

日本語の授業は、在日大使館勤務をはじめ、各国政府機関内で日本にかかわる業務に就くことが期待されている研修参加者のニーズに対応し、職務に役立つコミュニケーション能力を身につけることをめざして、オーラル・コミュニケーションに重点をおいたカリキュラムになっています。また、専門家による講義や文化体験、官公庁・企業・文化施設訪問、研修旅行など、日本社会や文化に対する理解を深め、日本国内でのネットワークを構築するための研修活動も用意しています。

これまで外交官628名（1981～2010年度）、公務員109名（1997～2010年度）に対する研修を行い、外交官日本語研修では、202名の在日大使館勤務者（2009年10月現在）、7名の駐日大使（2010年12月現在）を輩出するなど、研修修了者は日本にかかわる分野で活躍しています。



[上] 日本語国際センターで研修中の日本語教師
[右] 「国内大学連携大学生訪日研修」で各国から来日した大学生



長年にわたって開発してきたオリジナル教材をさらに拡充、多国語版へ展開

■『まるごと 日本のことばと文化(入門A1)』試用版開発

本教材は「JF日本語教育スタンダード」に準拠した日本語教材の試用版で、「JF日本語教育スタンダード」の理念である、相互理解のための日本語の実践モデルの提示、国籍・民族等を超えた日本語使用者間のコミュニケーションのための日本語、特定の課題を協働で遂行する能力、複合的視野・自文化への視点を含む人間的豊かさの獲得を目指すための日本語能力を培える日本語教材の制作を目的として開発を行いました。

■WEB版「エリンが挑戦!にほんごできます。」

あらたに4カ国語版を公開

WEB版「エリンが挑戦!にほんごできます。」は、公開以降、1年弱で世界176の国と地域から300万を超えるアクセス(ページビュー)があり、日本語と日本文化に関心があるたくさんの人達に活用されています。2010年度は、それまでの日英2カ国語に加え、スペイン語、ポルトガル語、中国語、韓国語の4カ国語版の追加制作をすすめました。

■『国際交流基金 日本語教授法シリーズ』全巻刊行

本シリーズは、日本語国際センターが長年にわたって実施している海外日本語教師研修の経験をもとに作成した日本語教授法教材です。実際に研修の現場で指導にあたってきた講師陣が執筆を担当し、日本語教授法のほぼ全般にわたるテーマをまとめました。2010年度は、第3巻『文字・語彙を教える』、第10巻『中・上級を教える』、第12巻『学習を評価する』を刊行し、シリーズ全巻を刊行しました。

■「アニメ・マンガの日本語」

—スペイン語版、韓国語版、中国語版を公開

いまや日本のポップカルチャーを代表する存在であるアニメやマンガは、世界の若者の間で絶大な人気を誇り、多くの日本語学習者がアニメやマンガをきっかけに日本語を

学び始めるとも言われています。国際交流基金ではこの点に着目し、日本語学習者のさらなる拡大をめざし、楽しみながら日本語や日本文化が学べるEラーニングサイト「アニメ・マンガの日本語」を2010年2月に公開しました。

アニメやマンガでは、独特のキャラクターが登場し、またさまざまなジャンルがあるため、日本語の教科書や辞書に載っていない表現も多く、日本語学習者にとっては理解が難しいようです。

対象となるのは、日本のアニメやマンガが好きな初級から上級までの日本語学習者。サイトでは、海外で人気のアニメ・マンガ作品で実際に使われた台詞に基づいた表現を多数とりあげ、教科書にはない生き生きとした日本語を、アニメ・マンガの世界観のなかで学ぶことができます。興味やレベルによって学習内容や学習方法をユーザーが選び、クイズやゲームを通して楽しく学ぶ工夫もあります。アニメ・マンガの典型的なキャラクター(男の子、女の子、野郎、侍、おじいさん、お嬢様、執事、大阪人)の特徴的な表現を学んだり、「恋愛」「学校」「忍者」「侍」など、海外で人気のあるジャンルによく現れる台詞や擬声語・擬態語、背景となる文化を学ぶことができます。

2010年度には英語版に加えて、新たにスペイン語、韓国語、中国語の3カ国語版を公開。サイトの利用も順調に増え、公開以来、世界の186カ国・地域から約260万アクセス(ページビュー)を記録しています(2011年3月31日現在)。また、フランスのパリで開催され、約17万人が集まった「JAPAN EXPO」をはじめとして、オーストラリアやスペインなど、各地で開催されるポップカルチャーイベントでの国際交流基金出展ブースなどで、アニメ・マンガという「日本文化」と「日本語学習」をつなぐツールとして活用されています。



[上] ウェブサイト「アニメ・マンガの日本語」より
[左] 『国際交流基金 日本語教授法シリーズ』全巻

海外における日本語教育の現状調査実施と JF日本語スタンダードの公開

■「海外日本語教育機関調査」2009年度調査の速報値を公開

国際交流基金では、世界の日本語教育の現状を正確に把握し、今後の日本語教育の施策に活用するため、3年毎に全世界を対象とした「海外日本語教育機関調査」を実施しています。

調査にあたっては、国際交流基金の海外拠点のみならず、世界各地に派遣されている日本語専門家、在外公館、支援先機関の協力を得ています。この調査では、学習者数、教師数、学習目的、問題点等のアンケート調査を行い、世界の日本語教育に関する基礎的なデータや情報を提供することで、関係者が情報交換しながら交流を進めていく際に役立つツールとなることを目的としています。

2009年度調査結果では海外の日本語学習者は全世界で365万人と大きな増加を示し、学習環境や学習目的の多様化が見えてきました。この調査結果は日本語教育の状況を知る手がかりとして、国内外の研究者、日本語関係機関や国際交流団体など多くの人に利用されています。2010年度は2009年度調査の速報値を公開するとともに、詳細にわたるデータ分析結果を報告書にまとめました。

また、この調査をもとにウェブサイト上で公開している「日本語教育 国・〈地域〉別情報」では、海外における日本語教育の実施状況、教育制度、教科書、シラバス、教師および学習者に関する最新情報などを掲載しています。こちらは、日本語教師のみならず、日本語教育の政策研究を行う大学での授業、日本語教師を目指す学生の情報源などとして、幅広く活用されています。

■「JF日本語教育スタンダード2010」

および関連ウェブサイトの内容充実

日本語の教え方、学び方、学習成果の評価の仕方を考えるためのツールとして2010年3月末に発表した「JF日本語

教育スタンダード(以下、JFスタンダード)2010」の内容の充実と利便性の向上を目指して、さまざまな取り組みを実施しました。

2010年7月には、冊子版『JF日本語教育スタンダード2010』と、JFスタンダードのより詳しい活用方法を収録した『JF日本語教育スタンダード2010 利用者ガイドブック』を刊行、また、同冊子のPDF版をJFスタンダードのウェブサイトに掲載し、無償でダウンロードができるようにしました。

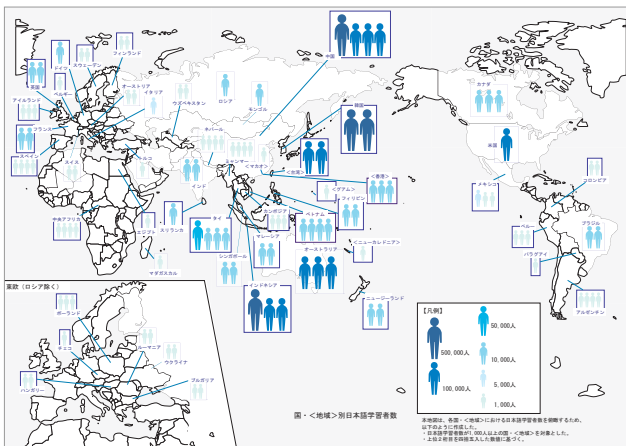
「みんなの「Can-do」サイト」では「My Can-do」の作成や「Can-doフォルダ」の分析を可能にするなど、日本語教師や日本語学習者により実践的に活用してもらうための機能を充実。また、それらを活用した学習の参考となるよう、JFスタンダードのウェブサイトや「みんなの「Can-do」サイト」にて「JF Can-do」のA1およびB2レベルのコンテンツを重点的に追加しました。

今後もJFスタンダードの普及を念頭に、紙媒体や電子媒体での情報提供およびウェブサイトの機能拡充を目指していきます。

■経済連携協定に基づく看護師・

介護福祉士候補者の日本語教育

インドネシア、フィリピンと日本との二国間経済連携協定(EPA)により、2008年より、インドネシア人・フィリピン人看護師・介護福祉士候補者の日本への受け入れが始まりました。国際交流基金は、これらの候補者を対象とした来日前3カ月間の現地日本語予備教育事業を実施しました。候補者のほとんどは、この予備教育で、日本語に初めて触れる人たちです。月曜日から土曜日の毎日、たくさんの学習をこなさなければならない厳しい研修ですが、日本で働くという目標をもった彼らの意気込みと学習意欲は大変高く、互いに励ましあいながら元気に授業に臨んでいました。



【上】海外日本語教育機関調査をまとめた『海外の日本語教育の現状』
【左】国・〈地域〉別日本語学習者数